

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	〒610-0380 京都府京田辺市甘南備台1丁目1-3						
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社椿本チエイン 京田辺工場 常務執行役員京田辺工場長 三尾 克彦						
事業者の主たる業種	動力伝導装置製造業（分類番号 2531）						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	20年 4月 ～ 23年 3月						
基本方針	事業活動、製品、サービスがかかわる環境への影響を認識し、地球環境保全の視点からリーディング・カンパニーとして創造性をもって環境負荷低減に取り組みます。（つばきグループ環境基本方針 による）						
推進体制	京田辺ユニット環境管理委員会を核として、3ヶ年計画及び年度計画を策定し、その進捗及びフォローを行う。						
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001つばきグループ京田辺ユニット					
	適用範囲	伝動用チェーン等の設計・製造・販売					
	取得年月日	平成15年9月26日					
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	20～22	加工工程	高効率電動機の採用（新規設備の導入時）				
	20～22	空調温度制御	クールビズ・ウォームビズの実施				
	20～22	照明設備のLED化	ダウンライト（蛍光灯）照明器具を、LED照明器具に変更する				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）	
	A 事業所等排出区分	19,306.0 t	18,757.0 t	-2.8 %	14,249.0 t	-26.2 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	*1 19,306.0 t	*2 18,757.0 t	-2.8 %	*4 14,249.0 t	-26.2 %	
	実績に対する自己評価	2008年度の全世界での、不況により生産金額が落ち込んだため 温室効果ガス排出量削減 -26.2 %となる					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）
	京田辺工場	二酸化炭素換算 生産金額（実勢）	0.892 t・CO <sub>2</sub> /百万円	0.867 t・CO <sub>2</sub> /百万円	-2.9 %	1.046 t・CO <sub>2</sub> /百万円	17.3 %
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
実績に対する自己評価	2008年度の全世界での、不況により生産金額が落ち込んだため 温室効果ガス排出量削減 -26.2 % 生産金額 66% と落ち込んだため 原単位当たりの温室効果ガス排出量が 17.3 % が増加した。						
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）		
		取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積） ha	（吸収量） t		（整備面積） ha	（吸収量） t	
	府内産の木材の利用	（利用量） m <sup>3</sup>	（削減量） t		（利用量） m <sup>3</sup>	（削減量） t	
	自然エネルギーを利用した電力 又は熱の供給	（発電量） kwh	（削減量） t		（発電量） kwh	（削減量） t	
		（熱供給量） GJ	（削減量） t		（熱供給量） GJ	（削減量） t	
	グリーン電力の購入	（購入量） kwh	（削減量） t		（購入量） kwh	（削減量） t	
	家庭における温室効果ガス排出 量の削減効果分の購入	（購入量） t	（削減量） t		（購入量） t	（削減量） t	
削減量等合計		*3 t		*5 t			
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	*1 19,306.0 t	(*2)-(*3) 18,757.0 t	-2.8 %	(*4)-(*5) 14,249.0 t	-26.2 %		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動							
特記事項							

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業者等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業者等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。